



こども病院に新病棟が完成しました。周産期・外科の西病棟です。病棟は明るく、高機能で広々とした手術室は6室、血管撮影をしている患者がそのままCT検査も受けられる世界初のシステムも導入されました。また、全国的にも珍しい小児集中治療室もでき、事故にあった患者に対応する救命救急治療もできるようになりました。屋上にはヘリポートもあり県内のどこからでも15分で病院に着くとのことです。さらには産科も設けられリスクの高い分娩にも対応できるようになりました。6月から運用が始まります。

<第143回 ほほえみの会>

2人の参加でした。

<第144回 ほほえみの会>

奈良医師をはじめ6人が参加しました。

2歳8ヶ月、男の子、悪性脳腫瘍。手術も終えて抗がん剤治療に入ったが、治療は自宅で5日間続けて薬を服用する形。5カプセル分の粉薬を一度に飲まなければいけない。大事な薬であり親は必死で飲ませようとするが本人は嫌がる。両親が殺気立って押さえつけて飲まそうとするので余計に飲まない。いやな気持ちがトラウマになってしまった様子。

あまりに嫌がるので病院に入院させて飲ませ、心療内科の医師にも相談をした。医師は薬を飲まないといけないことを話し、指人形を使うなどして指導をしてくれたが3日目からまた飲まない。

嫌がる子どもにどう薬を飲ませたらいいのか悩みの種。

参加した皆さんも同じ悩みは持っており、さまざまな体験談が出ました。

子どもは気分が変わるから楽しいことをさせて、その中で飲ませます。兄弟と一緒にジュースを飲んで本人には薬を飲ませます。また、蜂蜜のかたまりに練りこんで蜂蜜団子が飲みやすい。また、親の気持ちを敏感に感じるので、親がおおらかな気持ちを持つことも必要ではないかといった話も出ました。

自宅での治療で、人込みの多いところには出かけないように言われているが、人込みの多いところがどの程度か分からない。奈良医師からは、治療直後の免疫力が落ちている時は気を遣って欲しいが、それ以外は年末のデパートとかクリスマス前のトイザラス、冬の混み合ったエレベーター等に気をつければ良いとのこと。また、来年は幼稚園の年少組に入園させたいが病気のことを園に話しておいたほうが良いのかどうか分からない。奈良医師からは今は多くの学校や幼稚園で病気への理解が進んでいるように思えるが、学校の先生が病院に来てくれれば病気について説明をする。先日も移植後に入学する学校の校長、養護教諭、それに教育委員会の担当者がきて説明を受けていった。幼稚園の園長には話をし、心配なことがあれば病院に来てもらえば説明をしてくれるとのこと。

お知らせ

以前にもお知らせしましたが、病棟にピエロ(ホスピタルクラウン)がやってきて子どもたちと一緒に遊んでくれます。病棟への訪問は7月20日(金)に北4,北5へ来てくれることが決まりました。また、クラウンが親に対して「子供たちにとっていかに笑いが大切か」という講演をして頂けることになりました。そこで、スケジュール調整を行ない、今年の総会は9月9日(日)開催として、その時に講演をして頂くことにします。詳細は決定次第ご連絡します。



7月には役員改選をします。役員をしていただける方はお申し出下さい。特に、会計担当者に困っています。忙しくはありませんので是非ご協力をお願いします。池田までご連絡下さい。こども病院小児がん経験者の会「Peer」(ピア)が今年も夏にキャンプを行います。ご参加下さい。

次回は 6月 10日(日) 11時からです

ほほえみの会 代表 池田恵一 TEL054-247-9560

E-mailアドレス k_likeda@yahoo.co.jp

ホームページ <http://www.geocities.jp/hohoeminokai/>